

SSKO

社会福祉法人 はらからの家福祉会

われら同胞

NO.52



☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 2 p 総合施設長あいさつ
- 3 p 地域生活支援センター プラッツ
- 4 p グループホーム ピア国分寺
- 5 p さつき共同作業所
- 6 p ネットワーク推進事業部
- 7 p 新職員紹介
- 8 p 賛助会コーナー

制度環境の変化の中で

はらからの家福祉会 理事/総合施設長 伊澤雄一

年度の変わり目から少々の時間を経

たこの時期になりますと、昨年度の活動
まとめが集中的に行われるのですが、本
5月に実施された当会の監事役員によ
る事業・財政監査において、昨年度の法
人事業の全体の振り返りがなされ、それ
を踏まえ、6月7日には本年度第一回
理事会が開催され、昨年度のまとめに力
点を置いた審議検討を種々行いました。
さらに月末には評議員会による精査も
予定されており、それらを経てあらたな
気持ちで諸課題に向かうこととなりま
す。

昨年度は特に現場の人事面において
苦労の多かった年でした。離職や異動等
により、落ち着きなく過ごす日々が続
きました。部署によっては必要な体制が整
えられず、窮地ともいうべき事態に見舞
われたりもしました。

しかし現場の頑張りと、今年の年明け
から年度末にかけて、昨年度末と同様に
「素敵な出会いと良縁(?)」に恵まれ、
素晴らしい6人の新職員の登場と相成
りました。

本紙別コーナーでご紹介しております
新職員を、皆さまどうぞよろしくお願

いたします…。

さて本年度も社会保障や福祉分野の
様々な変化が続いており、特に障害福祉
サービスの報酬改定により、障害福祉サ
ービス事業運営における運営資金の確
保面で様々な困難性が増すことが予想
されています。

下記新聞報道にもあるように、今回の
報酬改定の眼目のひとつに「工賃支給の
平均額により事業所への報酬評価を変
える(つまりは「たくさん稼いだところ
に手厚く手当する」というものがあり
ます。

この評価基準により、実際、当会の運
営する「さつき共同作業所(就労継続B
型)」も影響を受けるのではないかと危
ぶむ空気が組織内にはあります。

事業所の運営現場では通所利用され
る方々への工賃の支給に意を注いでお
りますが、そのような支援のみならず
(決してそれを否定するものではありません
が;)、通所される方々の種々の生
活課題やニーズ、将来への希望に向けた
支援に相応の力を注いでおります。その
ような「総合的な生活支援」という営み
への評価が実に乏しく、つまりは制度と

2018年(平成30年)4月24日 朝日新聞

障害者事業所7割減収も

報酬改定受け経営調査

4月の障害福祉サービス報酬の改定を受け、事業所
団体「さようさん」が23
日、事業所の経営に与える
影響に関する調査結果を発
表した。一般就労が難しい
人を対象とする「就労継続
支援B型」を手がける事業
所361のうち、約7割の
248が減収となる見込み
という。
今回の改定は全体では0
・47%の増額。ただ、就労
支援では一般就労への定
額実績に応じた報酬体系
の導入など、事業所の努力
を促す内容も盛り込まれ
た。
小野常任理事は「成果
主義的な改定で、精神障害
で長時間働けないなど、障
害の程度が重い人を支える
事業所ほど苦しくなる」と
主張。国に徴収緩和などの
措置を求めた。
さようさんでは全国の事
業所に改定の影響を尋ね、
690事業所から回答を得
た。事業所が行う761事
業のうち、減収見込みは4
02事業だったという。
(佐藤優介)

支援現場には乖離が生じています…。

こうした状況に対して、当会も関係し
ている「全国精神障害者地域生活支援協
議会(あみ)」では、全国のB型事業所の
生活支援活動に焦点を絞った実態調査
を行うこととしており、実情をもって施
策への提言、つまりは工賃の多寡のみの
評価への反意を表明する方向を確認し
ています。

本調査を通じて、現在の「障害者総合
支援法」が基本としている「三障害一元
化」の名のもとに、逆に見えにくくなっ
ている「障害の特性に応じた支援のあり
よう」が、現場のリアリティーとともに
浮かび上がり、より良い制度へと進化す
るようにと、思いを馳せる今日この頃で
す。



平成29年度地域生活支援センタープラッツ事業報告

年間利用者状況	<p>① 相談支援延べ利用者数 7,809名</p> <p>訪問 415名 ケースカンファレンス 111名 来所 892名 関係機関連絡 1,042名 同行 194名 電話 5,048名 その他 107名</p> <p>② 来所利用者数 3,666名（*平均来所者数 13.73 / 日）</p> <p>③ プログラム 参加者数 1,039名（開催数 145回）</p> <p>④ 宅配弁当手配 518名</p> <p>⑤ ボランティア（実人数 10名）プログラム回数 58回 傾聴ボランティア 50回</p> <p>⑥ その他 外部会議 139回 出向・出講 130回 家族会支援 2回 地域イベント（バザー参加） 2回</p>
利用者の属性	<p>1. 利用者総数 410名</p> <p>地活登録利用メンバー 90名</p> <p>男性 49名 女性 41名 新規登録 6名 更新 84名</p> <p>国分寺市内 74名 市外 16名 平均年齢 52.06歳</p> <p>2. 指定特定相談支援事業利用者 92名（3/31現在）</p> <p>3. 障害者地域移行促進事業 個別支援利用者 59名 協力病院 10ヶ所 退院者 9名 支援終了者 20名</p>
職員体制	<p>常勤 : 伊澤（管理者）、中野（所長）、藤井、尹、角谷、猪鼻、小野寺</p> <p>非常勤 : 山内、保坂</p>
開館状況	<p>○ 開館日数 267日</p>

平成29年度振り返り

28年度から話し合いを続けてきた「いごちのよいプラッツをつくっていくために」（交流室で過ごすためのマナー）の改定を行いました。最終的には以前の物と大きくは変わらない形になりましたが、話し合いの中で改めて他者との関係や話題の選び方などを考える機会になりました。

指定特定相談支援事業（計画相談）・指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）や障害者地域移行促進事業においては業務量が多く対応しきれない場面もありました。30年度の目標にもなりますが今後の大きな課題となります。

平成30年度活動展開にあたり

複数人の職員の異動や退職があり29年度は職員体制が大きく動いてのスタートとなりました。長くプラッツに携わった職員の異動や退職もあつたため戦力として考えれば当然落ちてしまいました。しかし、若い職員も増えたため伸び代は大きく増えたと思います。この伸び代を生かすべく職員の育成にも力を注ぎ新しい形を作っていきたいと考えています。

プラッツは5つの事業を行っていますが、全体の構成や内容には大きな変化はありません。それぞれの事業について内容を精査し深めていければと思います。合わせて事業の効率化を行い新規利用希望者への対応力を高めていければと思います。

平成29年度 ピア国分寺事業報告

グループホーム・シヨートステイ

28年度から、4ユニットのうちピア国

分寺ユニットの期限を3年から2年に変更し、3年目は退去ではなく別ユニットへの移動という選択もとれるようにしてから、29年度では実際にピア国分寺から別ユニットへ移動した利用者がいました。共同生活タイプであるピア国分寺での経験を活かし、退去後の生活に近いアパートタイプのユニットでより実践的な取り組みを行っています。

年度途中から産休に入った職員がおりましたが、その職員からの丁寧な申し送り、職員間での相互カバーや他セクションの協力、また利用者からの理解を得ながら、利用者支援や事業運営に極力影響の出ないように努めました。



各ユニットの入退去者は以下の通りです。

ピア国分寺（定員7名）入居者3名、退去者3名。国分寺コーポ（定員7名）入居者3名、退去者5名。グリーンハイツ（定員6名）入居者2名、退去者2名。メビウス（定員6名）入居者1名、退去者3名。合計入居者9名、退去者13名。

ピア国分寺が東京都から受託している、退院促進を目的として入院患者を対象とした「グループホーム活用型ショートステイ事業」については、21名（前年度26名）の方が延べ211日（前年度184日）利用されています。年度当初は空室が目立つ状況がありました。より積極的な受入に取組み、年度後半からは、次月まで予約で埋まっている状況が続いています。新規利用者の増加もありますが、継続利用の中で徐々にステップアップし、アセスメントを積み重ねている方も多数おり、利用者ごとの状況や段階に合わせた対応に努めました。

〈平成30年度抱負〉

報酬改定による減収が見込まれる中で、長期の空室状況を作らない入居調整が、運営においてよりいっそう重要になってきます。入居希望者の多様な状況に、受入側である私たちが、関係者との調整、連携をはかりながらいかに柔軟に、幅広く対応していけるかが鍵となります。そのためにはまず、30年度から大幅な職員体制の変更がある中で、新人職員の育成、業務の引き継ぎや分担、整理といった、自分たちが余裕を持って取り組める状況づくりが必要であると考えています。



平成29年度さつき共同作業所事業報告

就労継続支援B型／自立訓練（生活訓練）

◆利用者の作業参加を促進するため安価ではありますが軽作業の受注をしたところ作業参加率の向上につながりました。同時に自主製品の売上げが安定して販売の継続が出来ているため軽作業工賃の補填になっていません。しかし、室内の軽作業が充実したことで、室外作業の参加者が減り工賃支払の平均額は下がってしまいました。

◆各種勉強会や相談会等で生活訓練の訪問支援の紹介を実施しています。蛍光灯と事務所エアコンが経年劣化により交換が必要になったためLEDに変えながら交換工事を実施、同時にコンセント場所を増やし作業等の能力向上につなげました。

◆常勤三名の退職により、かろうじて配置基準（常勤換算で10名）を満たしている状態、人事異動によりトラックの運転が出来る支援員の確保をします。

◆常勤職員三人の退職により育成のための研修計画を中断することとなりました。

◆「就労継続B」…東京都福祉保健局主催の『福祉セレクトショップ KURUMIRU』での自主製品（猫マグカップ、猫平皿）の安定した売り上げと、国分寺市キャラクターのホット商品も各種まつりを中心に売り上げを伸ばしていることで、安定した工賃支給が出来ました。また、ホット商品が、ふるさと納税返礼品に選ばれたことで商品の品質向上に取り組みました。

リタリコワークス府中の協力のもと『お仕事準備グループ SWPG』を月一回実施したことで就労の意識が高まり、四人が国分寺市就労支援センターを活用して就職活動を実施し、一人が就労しました。

◆「生活訓練」…個別ニーズを引き出しつつグループでのプログラムに生かしました。必要に応じて講師を招きながら安定したプログラムを継続した結果、料理プログラムや講師を招いてのプログラムの参加者が増えました。

訪問は、充実した社会生活の安定を支援していく理念のもと、個別ニーズに沿った支援を実施しています。

◆「運営」…報酬改定により、給付単価が減額になり厳しい運営が見込まれます。

平成30年度 事業計画

◆「運営」…報酬改定により、給付単価が減額になり厳しい運営が見込まれます。

◆現状で対応可能な加算対象サービスを増やします。同時に、実践力のある職員不足により、日々の業務に追われて後回しになりがちだった個別支援を見直し、利用者を増やすことで減収を補います。

◆「職員配置」…作業所に適った新入職員二名と異動職員一名により、改めて育成計画を見直し適材適所の人員配置を行い仕事の効率性と有用性を高めます。職場定着を意識し職員が相談しやすい仕組みをつくりたい。

◆「研修」…あらためてキャリアアップを取り入れた育成計画を策定します。

◆「就労継続B」…報酬改定により目標工賃設定が撤廃されましたが前年度同様、引き続き安定した工賃支払いを目指していきます。

◆清掃の工賃単価、契約量の増加に伴い室外作業の工賃を700円から750円に増額し、利用者のやりがい、働く場としての機能を強化していきます。

◆ハンドメイドでは東京都福祉セレクトショップに前年度より納品していますが、人気商品に偏りが見られます。継続的に納品を続けると共に利用者の個性を生かした新商品開発を行い、受注の増加を目指します。また地元を中心に営業活動も行っていきます。

◆一般就労を目指す利用者へSWPG（さつきお仕事準備グループ）は継続し、利用者のニーズに沿った講義の開催、それに伴うフィードバックを丁寧に行うと共に個別支援計画に連動させ就労支援を行っていきます。

◆「生活訓練」…利用者層は日中活動利用が初めて、利用日数も週2〜3日の方が占めます。プログラムの参加が通所につながっている方も多く、利用者のニーズに沿い、主体性をもって参加できる日常生活に必要な魅力的なプログラムを随時検討し柔軟に実施していきます。

◆個別支援計画及び個別訓練計画の作成・見直しを生かし、より個々のニーズに即したさつきの利用へつなげ、次のステップへつなげていく支援を行います。

◆訪問は、状況に応じた支援が行えるようスタッフの充実を図り、関係機関と連携を図っていきます。



平成29年度 ネットワーク推進事業部事業報告

29年度も又、沢山の方々のお陰で終了することができました。

事業目的は、地域での医療と保健・福祉の効果的な連携推進、具体的に

①「地域社会でその人らしい生活を送る為の医療サービスを提供する」という理念をもつ国分寺すずかけ心療クリニックにおける業務

②地域連携の1つである「地域ネットワーク多摩(通称ちたま)」(立川・国立・府中・国分寺の福祉・保健・医療連携)への積極的参加

③国分寺あゆみ会への協力と協働

④ピアとの協働です

平成29年度のそれぞれの事業報告

①医療の場において福祉的視点を持った多職種チームで、行政・医療・保健・福祉の様々な方の力をできるだけ頂き、地域で生きる生活者として

ての患者さんやご家族とともに何が出来るかを考え、デイケア・訪問看護・外来相談等にあららせて頂きま

した。加えて臨床心理士として心理検査を行い、地域で活かせる結果報告を生活に則して伝えるよう工夫して

てみました。

②ちたまに家族会にも入ってもらい、「ちたま」を振り返る年になりました。

今後を考えるうえで、多機能型診療所、訪問看護ステーション

等勉強会を行いました。

③今まさに疾病や障害のある家族を支えている役員や会員が、話し合

い、支え合い、白石弘巳先生をお呼びして講演会を行うなど新たな試み

をし続けている現場で、多くの時間を過ごさせて頂きました。引き続き

水曜家族相談会に、はらからやすずかけのスタッフが協力させて頂きました。

精神病床数が世界1である多摩地区のいくつかの病院と立ち上げ

た家族支援(家族心理教育)を考える「多摩心理教育ネットワーク」で

は、万葉の里で行った国分寺市市民福祉講座「精神疾患からの回復のために家族ができること」家族心理教

育の立場から」に協力させて頂きました。

④クリニック業務において、ピアスタッフと日常的に仕事をし、WRAP(元気回復行動プラン)を行いま

した。又すずかけのデイケアにおいてピアスタッフとともに、SHARE

の実践を継続しています。SHAREとは、治療を受けるご本人の希

望とリカバリーの実現を助け、ご本人と主治医とのSDM(Shared

Decision making: 共同意思決定)を支援するために開発されたコンピ

ューターシステムの愛称です。

平成30年度の抱負

①精神科において医療・福祉・心理

は大切な領域です。今年度は心理的部分である、患者さんが活かせる心理検査やカウンセリングを意識して取り組む予定です。

②継続的にちたまに参加し、ニーズを知り、顔の見える連携をしていきたいと思えます。又すずかけを通して、訪問看護や就労関係と具体的な連携を行う予定です。

③引き続き家族会がやりたいことができるような協力をできたらと思っております。「多摩心理教育ネットワーク」

では、標準版家族心理教育研修会in多摩(7月7日-8日@国分寺労政会館)を開催します。

④精神科において患者さんが主体的に医療を受けられるよう、ピアスタッフとともにSHAREの普及活動を行いたいと思えます。(6月3日共同意思決定講演会、リカバリーフォーラム、デイケア学会等)

今後ともご協力ご指導をよろしくお願い致します。(岡本)

新職員紹介

初めまして、5月よりグループホームに入職しました水木祥平と申します。これまでは、主に知的障害者支援の分野で就労支援・施設入所支援・グループホームでの地域生活支援等に携わってきました。

PSWを取得してから十年以上のブランクがあり、精神保健の法制度をもう一度勉強し直しています。はらからの家のメンバーさん、スタッフの皆様と共に、より良い共生社会の実現に向けて取り組んで行けたらと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

水木祥平

この度、4月からはらからの家福祉会の一員になりました。ダバレラ由美と申します。

私は福祉畑といわれる場所に縁が多かったので、いろいろな方とお話をしてきました。そこで自分が出来ることを考えたとき、皆さんが何かに属しながらも、主体性をもって生活できることの一助となれればうれいなあの思いです。

皆さんは、この珍しい名前だからか、よく話しかけてくださいます。初対面の緊張を和らげてくださるので、とてもありがたいです。

これからも、たくさん話しかけてください。宜しくお願致します。

ダバレラ由美

はじめまして。4月よりプラッツの職員となりました山下英香(あやか)です。この3月までの2年間は、就労継続支援B型の事業所で勤務していました。出身地は茨城県で、大学時代から東京で生活しています。映画鑑賞や美味しい物を食べるのが好きです。まだまだ未熟ではありますが、メンバーの皆さんや先輩方と共に時間を過ごしながら多くの事を吸収し、はらからの一員として励んでいきたいと思えます。宜しくお願致します。

山下英香

4月から地域生活支援センタープラッツの職員となりました大竹佑佳と申します。私は、「居場所の支援」がしたくてこの仕事を選びました。皆様に寄り添えるような関わりができたらと思っています。

私は3歳からバレエを習っており、大学時代はジャズダンスをしていました。踊ることが大好きです。社会人1年目で右も左も分からず、皆様に御迷惑おかけすることもあると思えますが、よろしくお願致します。

大竹佑佳

4月からさつき共同作業所に入職いたしました、首藤なずなと申します。

この3月までは美術大学で芸術学を学んできました。福祉の世界とは、少しずつ縁がある中で成長してきたのですが、きちんとした福祉の事はまだまだ勉強をはじめたばかりです。さつきをはじめ、はらからの素敵な先輩方の姿を見ながら、様々なことを吸収していきたいと思っています。これからも精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

首藤なずな

5月からさつき共同作業所でお世話になってます内間礼(うちまあや)と申します。

二年程前まで精神障害の方を対象とした就労継続支援B型/就労移行支援の作業所で二年半働いていました。

5人きょうだいで育ったため常に人に囲まれた生活をしていました。その為人と関わる仕事がしたいと思ひ、大学では心理学を専攻していました。

みなさんに信頼される支援者になれるよう日々勉強し、成長し続けたいと思ひます。よろしくお願いたします。

内間礼

はらからの家福社会賛助会コーナー

<平成29年度11月から3月の間に賛助会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

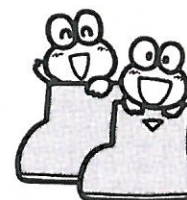
奥中 祐次 加藤 初江 川崎 嘉代 久保 祐二 小宮 静子 小宮 弘隆 近藤 節朗
 杉山 健治 高見 法孝 丹野 章子 豊泉 淑江 中村 典男 野田 順子 原田 敬子
 藤田 英親 山岸 琴美 横山 隆作 米陀 悦子 末盛 三枝子 渡辺 理
 オザキエンタープライズ株式会社 (有) 興洋エステート 匿名2名

敬称略

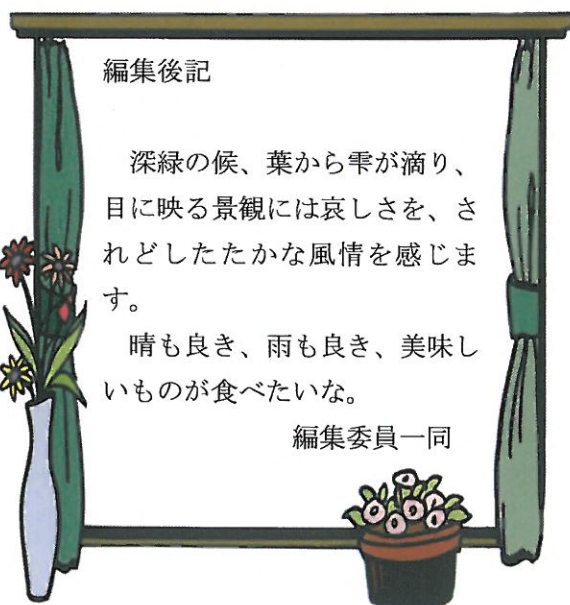
会員の皆様、本当にありがとうございました。今後ともなにとぞ宜しくお願い致します。

29年度はらからの家福社会賛助会決算報告 単位：円

支 出		収 入	
印刷製本費	4,536	賛助会費収入	478,900
雑 費	22,824	(90名)	
役 務 費	2,210	受取利息	0
郵便手数料	9,300	その他の雑収入	0
法人寄附	450,000		
当期繰越金	25,198	前期繰越金	35,168
合 計	514,068	合 計	514,068



※郵便振替用紙を同封させていただきましたので、平成30年度賛助会費、何口(1口2千円)でも結構です。お振込みいただくと幸いです。会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいておりますので、匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。



編集後記

深緑の候、葉から雫が滴り、目に映る景観には哀しさを、されどしたたかな風情を感じます。

晴も良き、雨も良き、美味しいものが食べたいな。

編集委員一同

はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>

【編集人】社会福祉法人はらからの家福社会
〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

TEL 042-323-5637

【発行人】障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

【定 価】¥120